

# マンダムグループのサステナビリティ戦略とマテリアリティ

## サステナビリティの考え方

マンダムグループの事業活動は、「E：環境」や「S：社会」が健全で持続可能であることが大前提です。

しかし、気候変動や生物多様性の減少、海洋プラスチック問題、サプライチェーンにおける人権問題など、さまざまな問題が顕在化しており、適切な対応とそれを支える健全な「G：ガバナンス」体制の構築が必要であると考えています。

企業理念に掲げる「社会との共存・共生・共創」=マンダムグループのサステナビリティそのものにとらえ、社会環境課題の解決に向けてサステナブル経営（ESG経営+SDGs経営）を根幹に据え、2021年度にはサステナビリティ方針の策定並びに、サステナビリティ上の重要課題（マテリアリティ）を特定し、本

業を通じた取り組みによるお役立ちの進化と企業価値の創造を目指していきます。

### 国際社会の枠組みとマンダムグループのサステナビリティ

2015年9月には、マンダムグループの全社員が、社会の持続可能な発展に向けて国際社会と同じ価値観を共有し、多様で幅広いステークホルダーとの関係性を強化する新たな機会の創出などを目的として、「国連グローバル・コンパクト」に署名し、国連グローバル・コンパクトが提唱する4分野10原則への支持を表明しました。



## サステナビリティ方針

健・清・美・楽を通じた、  
日常生活の豊かさと社会課題の解決を両立する  
独自のサステナブル経営を推進します

### 独自のサステナブル経営の構成要素

テーマ	内容
お役立ちの深さと広さの追求による生活者との強い絆創り	生活者満足の最大化と、生活者接点の拡大といった2つの側面におけるお役立ちを実現するため、独自性のある新たな価値を創造し、商品、コミュニケーション、流通を通じて、その価値を生活者に提供し続けます。
社会を支える人財の育成と多彩な人財による全員参画	人は企業の将来を担う重要な財産であるという考えのもと、社員全員を「人財」へと育て、その多彩な人財が働き甲斐を得て参画し活躍することで、会社の成長と社会へのお役立ちを拡大します。
善良なる企業市民としての持続可能な社会の実現への貢献	提供する商品・サービスはもちろんのこと、サプライチェーンを含めた企業活動全体を通じて、地球環境や社会へ及ぼす影響を長期的な視点で捉え、持続可能な社会の実現に貢献します。
ゴーイングコンサーンに向けた取り組み	社会との共存・共生・共創により、いつの時代もその時代を生き抜いていくダイナミズムとともに、あらゆるステークホルダーからその存在価値を認めていただける企業として発展し続けます。

### 4つのテーマの関係性

お役立ちの深さと広さの  
追求による  
生活者との強い絆創り

社会を支える人財の育成と  
多彩な人財による  
全員参画

善良なる企業市民としての  
持続可能な社会の  
実現への貢献

〈上記3テーマを中長期にわたって実現していくための基盤〉  
ゴーイングコンサーンに向けた取り組み

## サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス

Step 1	社会動向から当社を取り巻く「脅威・リスク」と「機会」をリストアップ
Step 2	「脅威・リスク」「機会」から取り組みテーマを抽出
Step 3	取り組みテーマと下記項目から「重点取り組みテーマ」を特定 ・外部機関*が設定する「Household & Personal Products」 ・当社の理念体系や各種戦略 ・当社事業に対する影響度 ・セクターにおける重要項目
Step 4	外部有識者とStep 3で特定した「重点取り組みテーマ」に関する対話を実施(9社14名)
Step 5	Step 4の対話内容をふまえて修正した「サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)」をサステナビリティ推進委員会(現 サステナビリティ委員会)に上申し、承認

\* 外部機関：FTSE、MSCI、SASB

## サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)

マテリアリティ	コミットメント	関連するSDGs
<b>強みを活かした価値創造による未来へのチャレンジ</b>		
<b>気軽に楽しめるおしゃれ文化の創造</b> <a href="#">→P.26</a>	「健康」「清潔」「美」の根底に、気軽に楽しむという「楽」軸を配した独自の「健・清・美・楽」の概念を持ち、唯一無二のユニークな商品やサービスを提案することでときめきや晴れやかな気持ちを与え、生活者の日々の暮らしを満たします。	  
<b>多様な生活者へのお役立ち拡大</b> <a href="#">→P.31</a>	変化する生活者の価値観や消費行動に対し常に臨機応変に対応し、生活者満足につながる商品・サービスが目につけやすい、選択しやすい環境を整え、グローバル10億人にお役立ちします。	  
<b>社員と会社の相互成長の実現</b> <a href="#">→P.34</a>	社員全員が会社や社会を支える「人財」となるために、「単位あたりの生産性」「個の成長と働き甲斐」「創造性」が向上する働き方改革を推進します。	  
<b>社会と企業の持続可能性の実現に向けた課題解決</b>		
<b>持続可能な地球環境への取り組み</b> <a href="#">→P.39</a>	循環型社会への移行を目指し、脱プラスチックを含めた製品のライフサイクルにおける環境負荷低減への取り組みを進めます。特に温室効果ガスの削減については、2050年までに温室効果ガスの排出実質ゼロの実現を目指します。	  
<b>持続可能な原材料調達</b> <a href="#">→P.45</a>	パーム油や紙などの倫理的な調達を行い、森林や生物多様性の保全に努める他、環境、労働環境、人権への対応など、サプライチェーン全体を通じて企業の社会的責任を果たします。	  
<b>企業基盤の継続強化</b> <a href="#">→P.48</a>	わたしたちの使命はお役立ちを広く深く続けることであり、その前提としてゴーイングコンサーンがあります。安心・安全の確保はもちろん、理念経営を根幹としたさらなる企業基盤の強化を進めます。	  

## サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)に関する中長期目標と進捗

2021年度に当社はサステナビリティ方針とマテリアリティを特定し、取り組みを推進してまいりましたが、具体的なマテリアリティに関する評価指標と目標値の開示がなく課題ととらえておりました。2022年度から新設されたESG実行委員会において、取り組みテーマを精査し整理し、サステナビリティ

上の重要課題(マテリアリティ)に関する中長期目標を検討し、策定いたしました。今後は、最新の社会情勢やステークホルダーのご意見・ご期待を考慮し、マテリアリティの継続的な見直しを行いながら進捗報告も行ってまいります。

マテリアリティ	取り組みテーマ	評価指標	中長期目標		進捗
			目標値	達成年度	(2022年度実績)
<b>強みを活かした価値創造による未来へのチャレンジ</b>					
気軽に楽しめるおしゃれ文化の創造	自分らしさを表現することへのお役立ちの深さの拡大	「自分らしさを自由に表現できる」新しい化粧品分野や生活者属性への提案件数	毎年3件以上	毎年	8件
		生活者課題解決につながる新たな技術提案件数	2021年～2027年の累計35件以上	2027年	8件(2021年～累計)
	おしゃれ文化の創造に関する人財育成	Only-oneマーケティング浸透のための研修受講率	(2023年度に開示予定)	2027年	2023年度目標値開示予定
多様な生活者へのお役立ち拡大	お役立ちの広さの拡大	流通網拡張に向けたチャレンジ数	毎年13件以上	毎年	44件
社員と会社の相互成長の実現	チャレンジする風土の醸成	理念サーベイによる『活躍社員』比率	38%以上	2027年	16%
		従業員エンゲージメント	毎年81%以上	毎年	70%
	多様な人財の活躍	女性管理職比率	女性管理職比率20%以上(マンダム単体)	2027年	11.9%
<b>社会と企業の持続可能性の実現に向けた課題解決</b>					
持続可能な地球環境への取り組み	脱炭素社会への取り組み	スコープ1+2におけるCO <sub>2</sub> 排出削減量(2013年度比)	日本国内+海外のスコープ1+2におけるCO <sub>2</sub> 排出量について、2013年度比で43%以上の削減	2027年	14.8%削減
		CO <sub>2</sub> 排出量ネットゼロの実現	2050年ネットゼロに向けたシナリオが完成している	2027年	海外グループ会社におけるスコープ3を算定中
		化石資源由来のバージンプラスチック排出抑制率	25%以上	2027年	5.7%(2016年度比)
	製品の環境配慮	自社基準による環境配慮製品比率	国内で販売するマンダム商品の90%を環境配慮製品とする	2027年	53.5%
持続可能な原材料調達	パーム油	原料の起源となるパーム油におけるRSPO認証パーム油比率	福岡工場で使用するパーム由来原料について、RSPO*認証パーム油(ブックエンドクレーム対応を含む)を100%とする	2026年	38.1%
	紙製容器包装	紙製容器包装のFSC®認証紙、古紙再生紙比率	紙製容器包装の全量をFSC®認証紙、古紙再生紙とする	2027年	89.0%
企業基盤の継続強化	安心・安全・高品質の提供	品質に関するご指摘件数	重大ご指摘数0	毎年	2件
	社員の安心・安全	長期休業者数	10名未満(日本国内)	毎年	15名
	理念経営の実践	理念経営浸透率	65%以上	毎年	62%

\* RSPO : Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

(FSC® N003667)

## サステナビリティ推進体制

わたしたちは、サステナビリティ推進体制の強化を目的として、社長執行役員を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置し、マンダムグループのサステナビリティ推進の考え方を

まとめるとともに、関連する委員会や会議などを通じて関係部門との協議を行いながら、社会の持続可能な発展への貢献に向けた取り組みの強化を行っています。



CSR情報  
▶ マンダムグループのCSR > マンダムグループ サステナビリティ推進体制

### サステナビリティ委員会および各傘下委員会の活動内容

委員会名	2022年度活動テーマ
サステナビリティ委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>マテリアリティに関する中長期目標の策定</li> <li>傘下委員会の活動状況の評価・分析・改善提案等統括管理</li> <li>2023年度取り組み強化するテーマについて</li> </ul>
ESG実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>マテリアリティに関する中長期目標の検討</li> <li>MP-14経営課題・事業課題につながる脅威/機会をリストアップ</li> <li>直近のサステナビリティ関連課題報告</li> </ul>
品質保証委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質保証規程に基づくマネジメントレビューの実施</li> <li>顧客からの申し出総括</li> <li>品質課題への対応</li> <li>安全性に関わる報告</li> <li>自主回収報告及び対応時の課題と対策</li> <li>品質教育および内部品質監査の実施報告および2023年度計画</li> </ul>
労働安全衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の安全衛生および職場環境の改善</li> <li>社員の健康向上のための情報提供</li> </ul>
トータルリスクマネジメント委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイルスによる機密情報漏洩対策</li> <li>ヒト倫理試験委員会(分科会)の推進</li> <li>当面の新型コロナウイルス対応の継続方針</li> <li>本社BCPの策定</li> <li>展開各国の有事リスク対応</li> </ul>
考勤規範推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>考勤規範全社教育の方針の決定</li> <li>内部通報制度の現状確認と周知徹底施策の検討</li> </ul>